

4 科学技術高等学校 実施報告書

- 1 実施日時 令和7年10月1日（水）16時30分から18時30分まで
- 2 実施場所 科学技術高校 視聴覚室・グラウンド（静岡市葵区長沼500-1）
- 3 実施内容
(1) タイトル 「放課後ラグビー10周年記念～リーチ・マイケル氏・佐藤幹夫氏から目標設定と努力の大切さについて学ぶ～」

(2) 内容

前半：佐藤幹夫氏とリーチ・マイケル氏との対談

二人から目標設定と努力の大切さについて学ぶ。

後半：放課後ラグビー

リーチ・マイケル氏に、私たちが行っている放課後ラグビーに参加していただき、知名度の高い同氏と一緒にプレーすることで、子どもたちのラグビーへの関心や理解を深める。



4 プロジェクトの概要

<テーマ設定>

科学技術高校ラグビー部は約10年にわたり、「放課後ラグビー教室」を運営してきました。県内の小学生～中学生を対象に水曜日の18時～19時30分まで子どもたちと一緒に楽しく活動することでラグビーの素晴らしさやラグビーから学ぶことができるものについて共有をしてきました。



静岡県内の中学校にはラグビー部のある学校がありません。現在はクラブチームのみが活動をしています。平日はなかなかラグビーボールに触れる機会がありません。私たちはそんな児童・生徒のためにこの教室を開始・運営してきました。この活動に対して参加者の保護者の方々から大変感謝されています。仲間のためにプレーをするという自己犠牲の精神や、挨拶について学ぶことができているとお声をいただいています。また、中学校で部活動を引退した中学3年生にとっても継続して身体を動かす場として好評を得ています。そのような中、今回は10周年を記念してラグビー日本代表のリーチ・マイケル氏と高校時代の恩師である佐藤幹夫氏を招待して子どもたちに話をしてほしいと考えました。お二人を招待したいと考えたのは佐藤氏の著書「No Pain No Gain」を読んだからです。リーチ・マイケル氏は高校時代身体が小さく線も細かったが努力をして現在の日本代表という地位になったことがわかりました。ぜひ佐藤氏、リーチ氏からこのような話を子供たちにしてほしいと思いました。そうすれば目標を持つことの大切さ、努力を継続することの大切さが伝わるとおもいます。今回は過去にこの教室に参加したことがある方々にも可能な限り声をかけようと思っています。もちろん運営側の私たちも多くを学ぶことができると確信をしております。以上の理由により企画しました。

<イベント実施までのプロセス>

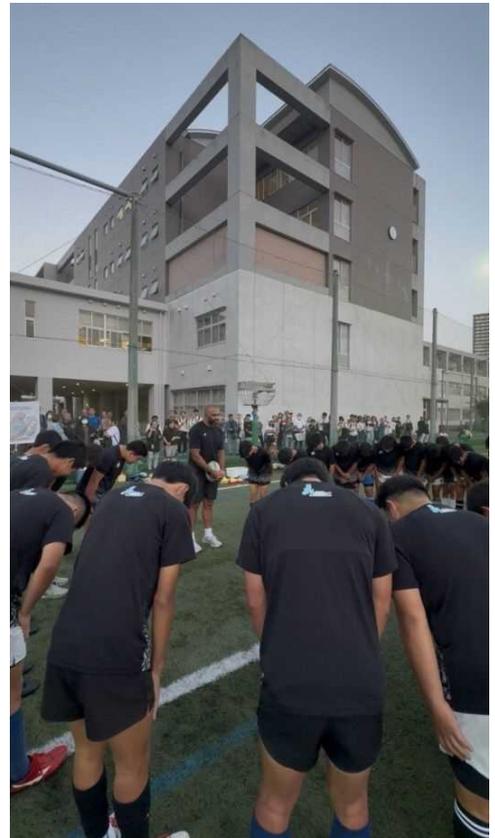
- 4月初旬 ドリーム・プロジェクト申し込み
- 6月27日 ドリーム・プロジェクト採用決定
- 7月18日 最終企画書提出
- 9月 8日 昼休みミーティング
- 9日 ポスター完成
- 16日 昼休みミーティング
- 中旬 プレスリリース、取材対応
- 21日 ファシリテーターの原稿完成
- 22日 放課後ミーティング
- 24日 リハーサル
- 25日 リハーサル
- 29日 リハーサル
- 30日 最終確認
- 10月1日 本番

<イベント当日>

- 16:30~17:00 佐藤氏とリーチ氏との対談 <約300名の参加>
- 17:30~18:30 放課後ラグビー <約100名の参加>



↑放課後ラグビー集合写真



↑対談をしている様子

5 感想

【杉本陽太】

今回、私は本企画の代表を務めさせていただきました。企画の運営も、代表としての活動も初めての経験であり、不安や戸惑いも多くありました。途中でいくつかの課題や失敗もありましたが、これらの経験が今後の成長の糧になると信じ、最後まで責任を持って取り組みました。

また、企画者全員が部活動や学業の合間を縫って準備や運営にあたり、それぞれにとっても貴重な経験となりました。リーチ選手と佐藤先生による対談は、視聴者にとっても、私たちにとっても非常に意義深いものとなったと感じています。

【法月智隆】

自分がイベントの中心として活動するのははじめてで、何からやったらいいのかわからない状態だったということを振り返るととても達成感を感じられました。この経験を将来に繋げてこれからの高校生活を過ごしたいです。

【永嶋凜夢】

初めてこのような企画を自分たちだけでやったので、何から始めていいかわからなかったけど、それを自分たちで解決してくことでいい経験ができたと思います。この企画で学んだことや得たものを無駄にしないでこれからの生活に活かしていきたいです。

【合田朋生】

企画を進めていく中で上手くいかないこともありましたが当日は企画が大成功してとても嬉しかったです。この経験を将来に活かし、さらに成長できるようにこれからも学校生活を頑張っていきたいです。

【木村光呂】

自分達生徒で、企画から運営まで一貫してイベントをすることが初めてで最初は何をすればよいか分からず、意見がまとまらないこともありましたが、話し合いを重ねて少しずつ形になっていく過程でこれまでにない充実感を味わうことができました。この活動で得た体験を今後の進路や社会活動で生かし、充実した日々を送りたいです。

【有ヶ谷海吏】

今回の様に生徒達だけで計画を立て、運営を行うという企画は初めての経験で、普段先生方に頼る様な所も自分達で考えなければならなかった為、とても困難に感じましたが生徒間同士で意見交換をし合い、最終的に満足に行く結果になったので、嬉しく感じましたし貴重な経験ができました。